

「府立高等学校特色づくり・再編整備計画（全体計画）」
にもとづく高校改革の進行状況について

中間まとめ
概要版

平成19年 8月

大阪府教育委員会事務局教育振興室高校改革課

総合学科高校

【これまでに開校した学校】

平成13年度:枚岡樟風 平成14年度:芦間 堺東

平成15年度:八尾北 平成16年度:貝塚

平成19年度:千里青雲*

【特色づくり再編整備計画以外の総合学科高校】

平成8年度:柴島 今宮 松原

平成16年度:能勢[中高一貫校]

*卒業生は平成21年度から

理念及び特色

(1) 設置理念

普通科目と専門科目の両方にわたって、多くの選択科目を設定し、生徒自ら科目選択をしていく中で、自分の適性や進路を見つけていく力をはぐくむ学校として「総合学科」を設置する。
(全体計画)

(2) 特色

- 普通科目と専門科目にわたる多様な科目の設定
- 多様な選択科目を設置し、選択の目安としての「系列」を設定
- 総合学科における原則履修科目「産業社会と人間」を中心とするキャリア教育の充実

進行状況

【入学者選抜状況】

- 平均志願倍率 1.46倍(平成19年度入学者選抜):能勢高校(中高一貫選抜校)除く
- 総合学科入学者の平均男女比率 男子約3割、女子約7割

【特色ある教育活動】

- 設置系列は、4～5系列
- 設置科目数の平均は156.2科目
 - ・ 普通教科 88.8科目、専門教科 44.0科目、学校設定教科 23.4科目

【学校の活性化】

- 「産業社会と人間」を中心としたキャリア教育の充実
 - ・ 1年次の原則履修科目「産業社会と人間」
将来の自分の進路を考えるための様々な体験活動やガイダンス、自己・他者理解を目的とした取り組みや自己表現力や情報活用能力を高めるためのディベート、テーマ学習、発表会を実施。
 - ・ 2年次以降は「総合的な学習の時間」等で、「産業社会と人間」を踏まえた内容を実施
- 改革後、部活動加入率が上昇した学校が多い。また、中退率は下がった学校が多い。
- 進路未定者を含む「その他」の率が減少
様々な教育活動で実施しているガイダンスなどが有効に機能していると考えられる。

【生徒アンケート】

- 「総合学科高校で学んでよかった」の肯定的回答は86.8%。
 - ・ 総合学科の多様な取り組みを通して、「自分で考える力や自主性を伸ばすことができた」、「コミュニケーション能力がついた」と感じている。

普通科総合選択制高校

【これまでに開校した学校】

平成13年度:福井 門真なみはや
平成14年度:八尾翠翔 日根野
平成15年度:豊島 西成 成美
平成16年度:大正 枚方なぎさ かわち野
金剛 伯太
平成18年度:緑風冠*
平成19年度:北摂つばさ*

* 卒業生は平成20年度以降

理念及び特色

(1) 設置理念

普通科の中で選択科目を多く設定し、基礎学力を重視しながら生徒一人ひとりの興味・関心にあった学習を通じて、進路実現の力をはぐくむ学校として「普通科総合選択制」を設置する。
(全体計画)

(2) 特色

- 基礎学力の充実
- 「エリア」の設置による、興味・関心にあった学習の展開
- 多様なエリア指定科目・自由選択科目の開設
- 進路実現の力の育成

進行状況

【入学者選抜状況】

- 改革後、志願倍率は上昇
- 前期選抜に移行した平成17年度以降は1.6倍前後で推移

【特色ある教育活動】

- 設置エリアは5～6エリア
- エリア指定科目(8～12単位)は24～51科目を設置
- 自由選択科目は47～97科目(平均70科目)、うち学校設定科目は18～60科目(平均35科目)を設置
 - ・ 専門科目を10科目以上設置している学校は3校
 - ・ 平均開講率は85%

【学校の活性化】

- 体育祭の応援団への参加増等、学校行事は活性化
- ほとんどの学校で、改革後、部活動加入率は10数ポイント上昇
- 中退者は改革後、1ポイント強、減少
- 卒業後の進路選択の状況は、未定者を含む「その他」の半減が特徴的

【生徒アンケート】

- 「普通科総合選択制で学んでよかった」の肯定的回答は76.4%、全般的に生徒の満足度は高い。

工 科 高 校

【これまでに開校した学校】

平成17年度：茨木工科 西野田工科 淀川工科
今宮工科 城東工科 布施工科
藤井寺工科 堺工科 佐野工科
卒業生は全て平成19年度から

理念及び特色

(1) 設置理念

産業構造の変化や技術の複合化などに柔軟に対応できる幅広い知識や技術の基礎・基本を備えた将来のスペシャリストとなる人材育成をめざし、専門分野の深化と、高度な専門性を身につけるための高等教育機関への接続という2つの方向性を基本として、教育内容の充実を図るとともに、再編整備を実施する。(全体計画)

(2) 特色

- 専門分野の〔深化〕と高度な専門性を身につけるための高等教育機関への〔接続〕
- 学科ごとの募集から総合募集へ
1年生で工業の基礎知識を学び、2年生からの系・専科で専門分野を幅広く学ぶとともに知識・技術・技能の深化を図る。

進 行 状 況

【入学者選抜状況】

- 工科高校全体の入学志願者選抜の志願倍率は、平成19年度まで概ね1.2倍

【特色ある教育活動】

- 総合募集と系・専科の選択
 - ・ 1年生で基礎的内容を学び、2年生から系・専科を選択して専門的内容を深める。
 - ・ アンケート結果では、系・専科選択の説明について「よくわかった」「だいたいわかった」あわせて70%程度の回答。
- 〔深化〕と〔接続〕の取組み
 - ・ 〔深化〕と〔接続〕に対応した教育課程の設定
 - ・ 高等教育機関への進学希望者の進路実現の支援
 - － 放課後や長期休業中の講習や補習による学力の向上の支援
 - ・ 新しい工業技術を身につけることの支援やその効果の発信
 - － 技術や技能の資格取得への積極的取り組み、また奨励や表彰の実施
 - － コンテストや全国規模の大会・コンクールへの参加

【学校生活の状況】

- 工科高校全体の中退率は、平成17年度1年生で0.4ポイント下降

多部制単位制高校 (クリエイティブスクール)

【これまでに開校した学校】

平成15年度:[普通科] 咲洲

平成17年度:[普通科] 箕面東* 桃谷*

[総合学科] 成城* 東住吉総合*

和泉総合*

* 卒業生は平成19年度から

理念及び特色

(1) 設置理念

生徒自ら学ぶ科目や時間帯を選択することにより目的意識を養い、進路目標に応じた多様な学習が可能となるよう、単位制で昼間の定時制のシステムを活用した、新しいタイプの学校として設置する。(全体計画)

(2) 特色

- 多様な生徒のニーズに対応した多様な学びの提供
- 自分の生活スタイルに合わせて学ぶ時間帯を選択
- 自分のペースに合わせて三修制または四修制を選択
 - ※ 三修制(3年間で卒業を予定するカリキュラムのこと)
 - 四修制(4年間で卒業を予定するカリキュラムのこと)

～クリエイティブスクールの教育システムについて～

- I部(午前部)、II部(午後部)など異なる時間帯に教育課程を設け、生徒は所属する部と他の部の教科・科目を履修することによって、学校の授業だけで3年で卒業できるシステムとする。
- 生徒が自らの進路や適性、興味・関心に基づいた系統的な選択ができるよう、内容的に相互に関連する科目群(普通科では「ワールド」、総合学科では「系列」)を複数設ける。
- 多様な教育課程を編成できるよう、二学期制で運営する。
- 多部制、単位制を活用することで、生徒は自分の生活スタイルにあった授業時間帯を選択し、進路や興味・関心に合わせた時間割をつくることができる。

進行状況

【入学者選抜の状況】

- 開校3年間、I部II部とも平均志願倍率は1.2倍前後

【特色ある教育活動】

- 設置科目数は6校平均120科目程度
- 学校外における学修に係る単位認定や高等学校卒業程度認定試験合格科目等の単位認定を実施。
- 土曜開講を実施。

【学校生活の状況】

- ほとんどの生徒が入学時に三修制を希望。
- 1年次生の部活動加入率はI部4割程度、II部1割未満
- 中退率(平成17年度)はI部9.1%、II部15.3%

【生徒アンケート】

- 多くの生徒は、「多様な科目選択ができる」「学ぶ時間帯が選べる」「自分のペースで学べる」を志望理由として挙げている。
- 「進学した部」や「選択した科目」に対して満足度は概ね高い。

夜間定時制高校

【これまでに開校した学校】

平成17年度再配置

[普通科] 桜塚 春日丘 大手前 寝屋川
布施 三国丘 桃谷#

[総合学科] 茨木工科 西野田工科 今宮工科
藤井寺工科 堺工科 佐野工科
成城# 和泉総合#

… 多部制単位制Ⅲ部

卒業生は全て平成19年度から

理念及び特色

(1) 設置理念

新しい夜間定時制の課程は、昼間に働きながら高校に入学を希望する生徒の他、様々な目的や事情により夜間に就学することを希望する生徒など、夜間という条件の中で目的意識を持って学習する生徒の就学の場として、教育内容の充実を図る。(全体計画)

(2) 特色

- 単位制を導入し、単位修得を支援する。
- 多様な選択科目を開設し、学習意欲や関心を高める。
- ガイダンス機能やカウンセリング機能の充実を図る。

進行状況

【入学者選抜状況】

- 進学を希望する生徒を十分に受け入れることができる状況。
(平成19年度平均志願倍率0.73)
- 入学者の男女比率は、普通科ではほぼ同数、総合学科は女子が24.2%。
総合学科(平成16年度まで工業科)で女子の割合が増加。

【特色ある教育活動】

- 生徒の学習意欲や関心を高め、単位修得を支援するためにゼロ時間目授業(始業時間前授業)、土曜開講を実施。
- 様々な学校外の学修に係る単位認定を実施。
- 科目選択におけるガイダンス機能の充実。

【学校生活の状況】

- 定時制専用教室や保健室、相談室等の施設の整備及びハートケア・サポーターの配置などの活用によりカウンセリング機能を強化。
- 1年次生(平成17年度)の中退率は減少。

国際・科学高校

【これまでに開校した学校】

平成17年度:千里 住吉 泉北

卒業生は全て平成19年度から

理念及び特色

(1) 設置理念

国際化、情報化の進展に対応し、コミュニケーションツールとして外国語と情報機器を活用し、豊かな国際感覚や確かな国際理解の下に、科学技術、経済、文化等の分野において、グローバルに活躍できる人材の基礎となる資質・能力の育成をめざすため、海外との交流や、実験・実習を重視した授業展開などに特色を有する新たな専門高校として「国際・科学高校」を設置する。

(全体計画)

(2) 特色

- 科学分野での実験・実習や語学分野での体験学習など、観て、聴いて、感じることを重視した教育を推進する。
- 英語・情報機器を活用したコミュニケーション能力の育成を図ることとし、教科学習においても、英語の積極的な活用を図る。
- プレゼンテーションの手法を授業に積極的に取り入れ、多様性を尊重する国際理解教育を推進する。
- 自国の文化とともに世界の国々の文化や歴史を理解し、多様性を尊重する国際理解教育を推進する。
- 海外からの留学生を積極的に受け入れるとともに、海外への留学、語学研修、海外修学旅行など、海外における学習機会を充実する。
- 大学、研究機関などと連携した先進的な学習を推進する。
- 科学教育、語学・国際理解教育の取組みの成果を、府立高校全体に発信する。

進行状況

【入学者選抜状況】

- 平成19年度平均志願倍率 国際文化科 1.70倍、総合科学科 1.76倍

【特色ある教育活動】

- 国際文化科では週平均20時間程度CALLシステムを活用した授業を実施。英語及び、英語以外の外国語講座(フランス語、スペイン語、中国語、韓国・朝鮮語など)も選択科目として開講し、多くの生徒が選択。
- 総合科学科では、生徒全員が器具や対象物に実際に触れ観察する体験を重視し、「理数物理」・「理数化学」・「理数生物」・「科学探究基礎」において少人数展開授業を実施。最先端の実験・実習機器を含む理科の実験室が整備され、授業時間数のうち約4割を実験・実習に当てている。
- 国際・科学高校では、訪問する国等の事前学習から、海外の現地校との交流や施設見学、日本とは異なる自然や環境の中での調査学習や観察・実験などを経て、帰国後の調査成果の発表までを一連の学習とした「海外スタディーツアー」を実施。

全日制普通科単位制高校

【これまでに開校した学校】

平成13年度：長吉
平成15年度：槻の木

理念及び特色

(1) 設置理念

全日制の時間帯で、自分で学習計画を立て、自分にあった方法で、自らの学習ペースに応じて学力を伸ばす学校として、「全日制普通科単位制高校」を設置する。

(2) 特色

- 生徒一人ひとりが自己の学習ペースに応じて、興味・関心、能力・適性、進路希望等に基づき学習内容を選択することを通して、主体的に学習する姿勢や創造的な個性、進路実現の力をはぐくむ。
- 全日制単位制の趣旨や特色を生かした教育課程を編成し、基礎学力の充実を図るとともに、進路実現にも対応できる多様な選択科目を設置する。
- 科目選択の参考としてモデルプランや「科目群」を設置する。また、科目の選択指導のため、ガイダンス機能を充実させる。
- 集中講座や前期後期毎の単位認定など、単位制の利点を生かせるよう2学期制を実施する。
- 柔軟な単位制の教育システムを活用し、生徒の状況や進路希望などに合わせた教育課程を編成し、様々な教育活動を展開できる。

進行状況

【入学者選抜状況】

- 長吉高校の改編後の志願倍率は、年度により1.03倍から1.60倍
- 槻の木高校の改編後の志願倍率は、概ね2倍前後

【特色ある教育活動】

- 生徒が、興味・関心、進路希望等に応じて科目選択できるように、特色ある選択科目を約100科目設定。
- 将来の進路目的達成に必要な科目を選択できるように、選択科目のシラバスを活用し、きめ細かなガイダンスを実施。
- 2学期制で全科目学期毎の単位認定を実施。
- 進路実現の支援として、放課後や長期休業中などに、基礎学力の定着や発展的な学習などの補習や講習を実施。
- 学校外での学修による単位認定の制度を積極的に活用(英語検定、漢字検定、書写検定、高校卒業程度認定試験等の成果を単位認定)。また、大学での講義受講による単位認定や、インターンシップ、大学教官による出前講義などを実施している学校もある。

【学校生活の状況】

- ホームルーム単位での参加形態をとっている学校では、学校行事は活発。個人の自主的な活動を重視し、個人やグループのエントリーによる参加形態をとっている学校では、学校行事への参加率は高くない。